

ビンナガ 北大西洋

Albacore, *Thunnus alalunga*

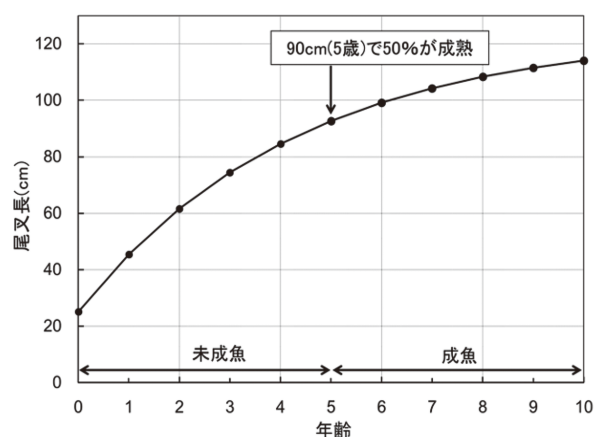


管理・関係機関

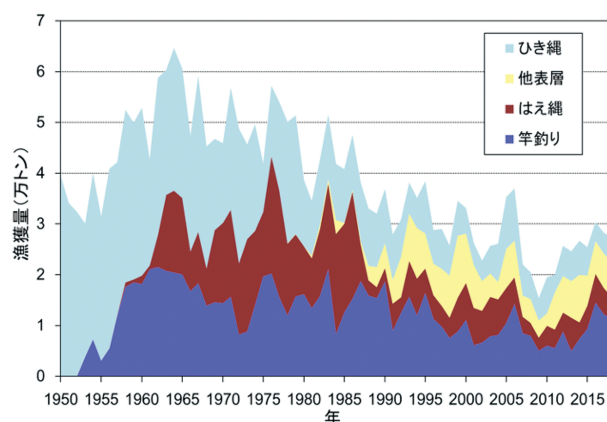
大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長 130 cm、40 kg
- 寿命：10 歳以上
- 成熟開始年齢：5 歳頃
- 産卵期・産卵場：主に、西部では北緯 25～30 度、中部から東部では北緯 10～20 度
- 索餌期・索餌場：温帯域（北緯 25 度以北）
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類



北大西洋ビンナガの年齢と尾叉長 (cm) の関係



北大西洋におけるビンナガの漁法別漁獲量

利用・用途

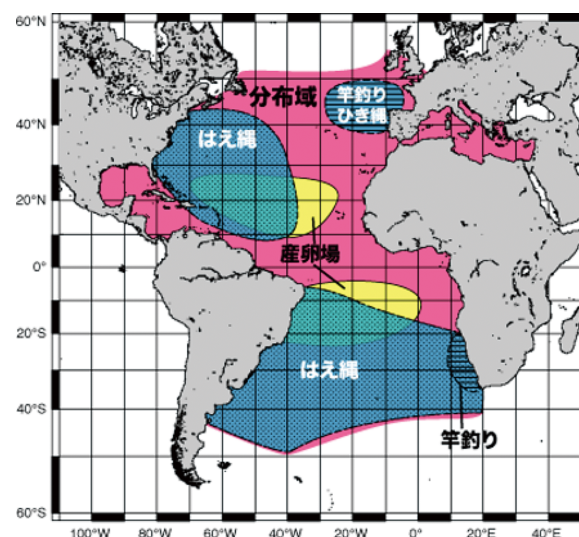
刺身や缶詰原料

漁業の特徴

ビスケー湾でスペインのひき縄及び竿釣り、またアゾレス海域でスペイン及びポルトガルの竿釣り、1950年代以前の古くから漁獲されてきた。1980年代後半から、これらの伝統的表層漁業に加え、新しい表層漁業である流し網や中層トロールによっても漁獲されるようになった。はえ縄による漁獲は多くを台湾が占め、1960～1980年代に多かったがその後減少し、表層漁業による漁獲よりも小さくなっている。日本ははえ縄の混獲として漁獲している。

漁獲の動向

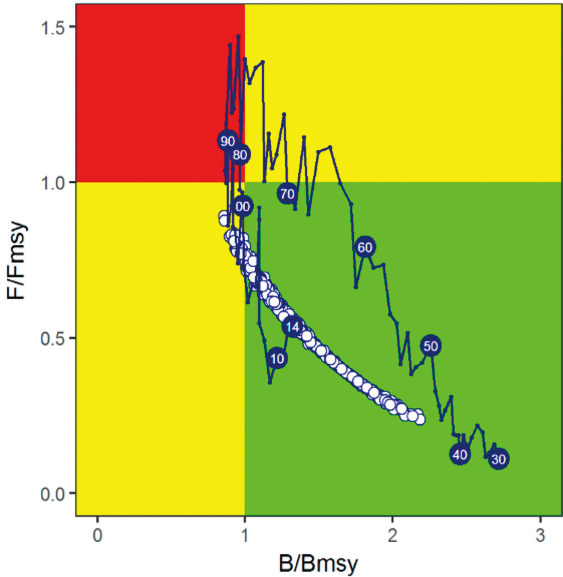
本資源の年間総漁獲量は1960年代中頃（約6万トン）をピークに、徐々に減少している。その原因は主としてひき縄、竿釣り及びはえ縄等の伝統的な漁法の努力量の減少による。近年では1999年の3.5万トンから2002年の2.3万トンまで減少した。その後、表層漁業による漁獲量が増加して、2006年に3.7万トンにまで回復した。しかし、2007年から表層漁業及びはえ縄の両方の漁獲量が大きく減少し、2009年には1.5万トンとなった。これは1950年以降で最低であった。2010年以降、増加傾向に転じ、2018年は2.9万トンを記録した。国別では、スペインが最も多く1.6万トン、日本は200トンであった。日本・台湾・スペイン・フランス・アイルランドは過去5年平均と同様であった。



大西洋におけるビンナガの分布と主な漁場

資源状態

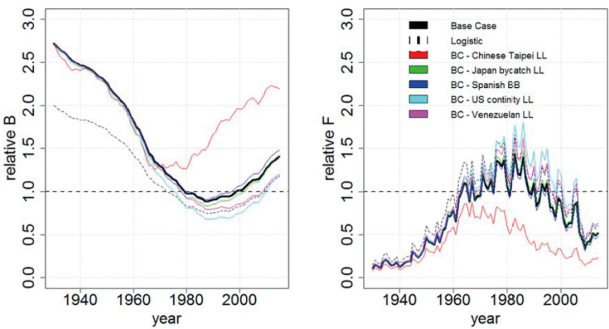
2016年の最新の資源評価では新たに親魚資源量動態モデル (Biodyn) を用いられた。資源評価には1930～2014年のデータを用い、前回の資源評価ではCPUEの漁業間での不整合が問題となっていたため、今回の資源評価では、漁業のデータの良質さ(カバーする海域・期間の多さや精度)を考慮し、かつCPUEトレンドの相関から歴史的に類似のCPUEトレンドを示す5種類の漁業(台湾のはえ縄、日本のはえ縄(1988～2012年)、スペインの竿釣り、ベネズエラのはえ縄、米国のはえ縄)を抽出して用いた。Biodynの結果では、1930年代から1990年代にかけて資源量は減少し、1980～1990年代にMSYレベルを下回ったが、その後回復傾向が続き、現在はMSYを上回っている。漁獲圧も1990年代初頭に1.4と、MSYレベルを上回っていたが、1990年代後半以降はMSYを下回ったとされた。ベースケースモデルより推定されたMSYの中央値は37,082トン、 B_{2014} / B_{MSY} の中央値は1.36、 F_{2014} / F_{MSY} の中央値は0.54であった。過剰漁獲でありかつ乱獲状態である確率は0%、過剰漁獲ではないが、乱獲状態である確率は3.2%、過剰漁獲・乱獲状態にない確率は96.8%と推定された。将来予測の結果より、将来の漁獲量が最近5か年平均(2.4万トン)またはTAC(2.8万トン)であった場合、資源量は2014年レベルより増加すると予測された。



北大西洋ビンナガの資源における相対資源量 (B / B_{MSY}) と相対漁獲係数 (F / F_{MSY}) の1930～2014年における推移
黒線：資源状態の軌跡、黒点：年別の資源状態(数字は西暦下2桁を示す)、白点：2014年の資源状態の不確実性を示す。

管理方策

ICCATにより、1999年から、漁獲能力を抑えるために入漁隻数が1993～1995年の平均隻数に制限され、TACも設定されている。2017年のTACは28,000トン、2018～2020年のTACは、2017年11月に採択された漁獲決定ルール(HCR)に基づき、33,600トンと設定された。また日本については、北大西洋ビンナガを目的とした操業を行っていないので「漁獲量が大西洋全体におけるはえ縄によるメバチの漁獲量の4%以下になるよう努力する」という規制が課せられている。



Biodyn ベースケースモデルから得られた北大西洋ビンナガの相対資源量 (B / B_{MSY}) (左) と相対漁獲係数 (F / F_{MSY}) (右) の推移

ビンナガ(北大西洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	中位
資源動向	増加
世界の漁獲量 (最近5年間)	25,551～30,340トン 最近(2018)年: 29,363トン 平均: 28,062トン(2014～2018年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	196～366トン 最近(2018)年: 196トン 平均: 280トン(2014～2018年)
管理目標	MSY: 37,082トン
資源評価の方法	親魚資源量動態モデル (Biodyn)
資源の状態	$B_{2015} / B_{MSY} = 1.36 [1.05 \sim 1.78]$ $F_{2014} / F_{MSY} = 0.54 [0.35 \sim 0.72]$
管理措置	・入漁隻数の制限 ・TAC: 28,000トン(2017年)、 33,600トン(2018～2020年) ・漁獲決定ルール(HCR)による管理 ・日本については漁獲量を大西洋全体におけるはえ縄によるメバチの漁獲量の4%以下とする努力義務
最新の資源評価年	2016年
次回の資源評価年	2020年